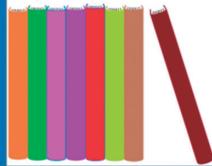




大人が絵本を 第10回 定期健診で使える



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*
小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー Bibliokids(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事/ファウンダー

異業種間の連携

赤ちゃんにとって「絵本は心のミルク」とは、身体の成長に必要な食と対比して、よく使われる表現です。乳児期にブックスタートを経験することで、赤ちゃんとの楽しい時間が増え、親子の絆はどんどん深まり、絵本の心地よい言葉をお父様お母様の声で届けてもらった赤ちゃんは、五感を刺激される愛情を受けて、安心感のもとに成長していくのです。親と子の絆であり、1対1の連携の始まりなのです。女性が社会進出する現代の変化に対応して、地域が子育てをサポートする時代とともに、その基軸となる活動としてのブックスタートが定着しつつあります。

ブックスタートの本質は、「絵本を読み聞かせる」ことではなく、親子が「絵本を開くひとときの楽しさや喜びを分かち合う」¹⁾ことなのです。それは、お父様お母様にとって、子育ての苦労を楽しみに変える手立てとなります。しかし、そこにいきつくには支援の手が必要なのです。0歳児になぜ絵本が楽しいのか、親子の間で絵本が果たしてくれる役割とは何か、そして、どのように読めばよいのかといった赤ちゃん絵本の極意を保護者が知るだけで、絵本の持つ力は育児書の解説文よりも心強い存在となり、実践できる力となります。

当館が取り組んでいる読書支援活動から、ブックスタート事業の方法に各自治体で格差が生じていることがよくわかります。それは、絵本をただ配付するだけではなく、絵本の楽しさを届ける事業として、地域に根差した活動にならなければ、本当の育児支援とは言えません。その本来の目的に沿った活動を実現させるキーワードを私たちは連携だと確信して

います。事業主は各自治体ですが、行政が運営して成り立つ事業ではありません。また、絵本のことからといって司書だけが関われば良いのも、子育て支援を担う保健師らが関わっていれば良いものでもなく、子どもに関わるすべての専門家すなわち、小児医療、小児歯科医療、保健、発達心理学、保育・幼児教育、子育て支援ボランティアらがそれぞれの専門的役割を果たすため、積極的にアプローチしていかなければならないということなのです。行政と各関係機関が、ブックスタートの意義や意識に共通認識をもって、何よりも異業種間の境界線を越えて地域の子どもの健やかな育ちを願って育児支援に当たることこそ、この事業の本質だと言えるのです。ブックスタートが地域に根差した活動となるには、民間からの働きかけが必要なきに來ていると考えます。

ビブリオキッズが考えるブックスタート

当館の会員で、特に第一子の赤ちゃんをお連れのお母様方は、そもそもの「ブックスタート」という言葉をご存じありません。赤ちゃん絵本について読書相談を受けますと、アドバイスの過程で「ブックスタートで何をもらいましたか」と尋ねても、不可思議な表情をされます。「4か月健診のときに絵本を

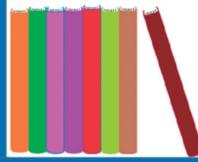
ブックスタート絵本

『じゃあじゃあ
びりびり』
まついのりこ 作・絵
(偕成社)



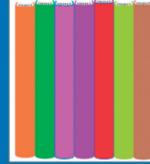
手にするときは！

ブックスタート絵本



企画 濱野 良彦
構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)



もらいませんでしたか」と質問を変えると、そこで始めて答えが返ってくるのです。あるいは、ブックスタートという事業のことを知らずとも、お子様に絵本を読んであげたいという熱意・関心のあるご家族ではブックスタートの詳細をお話すると、「赤ちゃん絵本」と絵本」についての疑問が解けたと喜ばれ、行政に対する考え方が変わります。

本来のブックスタートの意義や目的からすると、「赤ちゃん絵本をひらく時間の楽しさを実際に体験してもらいながら、絵本が入ったブックスタート・パックを手渡す²⁾という過程が大切なのです。この体験を健診待ちなどの時間を活用して、ほんの1分でも2分でも味わうだけで、お母様の絵本に対する意識は変わります。健診会場に少数の人材を投入し、お話するだけで、必ず解決できることなのです。

それでは、一歩ずつ前に進んでいくための方策として、実績のある配付絵本から着目してみます。



ブックスタート赤ちゃん絵本の選ばれ方

各自治体で渡される絵本は、NPOブックスタート^{*1}の「選考会議」で、赤ちゃん絵本に関する知識が豊富な、多様な分野の専門家で構成される選考委員が公平、中立的な規定のもと、厳選された「ブックスタート赤ちゃん絵本20冊」の中から、市区町村が選んだものです。ですから出版社はもちろん、NPOブックスタートの意向が反映されることは一切ありません。2年ごとに選ばれた20冊の絵本は、

*1 ブックスタートの理念を伝え、独立・中立的な立場から継続的に地域の取り組みをサポートすることを目的に、2001年4月に「ブックスタート支援センター」として設立された民間の非営利活動組織。2004年2月に現在の組織名称に変更されました。



ブックスタート絵本

『がたんごとん
がたんごとん』
安西水丸 作
(福音館書店)

非営利の活動という主旨に沿って、出版社から特別支援価格で提供される仕組みになっていて、NPOブックスタートを通じたパック流通の場合にのみ適用されています。出版社、出版販売会社、書店の業界三社が「ブックスタート・パックの絵本提供の仕組みからは直接的な利益を得ない」という基本的な合意に基づいて活動を支援しているということです³⁾。

そこで、選考会議で厳選された20冊より実際にどのような絵本が渡されているかをみるために、ブックスタート日本導入の試験実施自治体となった杉並区⁴⁾を含む東京都5区に、過去5年間の配付絵本を電話調査しました。これに福岡市の6市区を合わせた結果、最も選ばれていたのは『じゃあじゃあびりびり』(5市区計10回)、次いで『がたんごとん がたんごとん』『くだもの』でした。これらは比較的読みやすく、絵本の説明を受けなくても赤ちゃんへ届けやすい作品です。絵本の配付冊数はさまざまで、福岡市が親子1組に1冊渡しているのに対し、3自治体は年度ごとに選書される2冊を渡していました。1自治体では絵本2冊をパックで準備するのですが、既に持っていることを考慮して別途、交換絵本を4冊準備しており、絵本との幅広い出会いへの配慮が見受けられました。



柔軟なブックスタートシステムに

ブックスタートで渡される絵本が、地域に新しく生まれた赤ちゃんのファーストブック^{※2}となるのは良いことですが、わが子のファーストブックを保護者が購入することもまた、思い入れのある1冊として大切にすべきことなのです。

乳幼児健診会場の待合室に、「ブックスタート赤ちゃん絵本20冊」に加え、それ以外にも多数ある優れた赤ちゃん絵本を並べて、健診待ちの親子とスタッフが絵本の楽しさを分かち合うことで、個々の親子が気に入った絵本に出会ったときに、その場で購入できるような対応が必要です。その際に「ブックスタート20冊」に限り、支援事業という名目で、乳児一人に1冊または2冊までに限り、特別価格で販売できるような渡し方でもよいという幅をもたせることができないのでしょうか。ブックスタート導入に問題を抱えている自治体のことを考慮して、実施方法に柔軟性をもたせることで、さまざまな行政事情を持ちあわせる全国各地において、子育て支援の実現につながっていくことが期待できます。

ブックスタート絵本

『くだもの』
平山和子 作
(福音館書店)



そうして購入した1冊は、保護者にとっても成長した子どもにとっても、愛着と重みのある絵本になるでしょう。何より、親子と相性が合ったことで入手された1冊は、その日から家族のコミュニケーショ

※2 赤ちゃんが生まれて初めて触れる絵本のこと。この位置づけから、赤ちゃん絵本そのものの名称としても使われています。

ンツールとして大活躍する姿が目には浮かびます。

0歳のときの絵本体験の違いによって、1~2歳になったときの聞く力、想像する力に個人差が生じることにはなりますが、これは保護者の絵本に対する理解度が影響するのです。理解度は、保護者自身の読書体験量に加えて、ブックスタートの意味や赤ちゃんとの絵本の関係について指南を受けているかどうかによって決まります。

大事なことは、絵本をプレゼントすることよりも、親子に絵本を介した楽しさや喜びを届け、育児に潤いと満足感を得る糸口をみつけていただくことなのです。忘れてならないのは、育児の拠り所となる絵本の存在価値を渡すということなのです。

小児歯科でできるブックスタート・フォローアップ

これからの小児歯科の臨床の大きな変革の波は、妊婦歯科健診に始まり、出産後の授乳や食事の問題に対しての小児歯科の臨床が重要であると言われています。毎日の臨床の現場では、妊婦の健康相談や乳幼児の育児支援的臨床が中心となっていく現状を踏まえると、小児歯科の臨床におけるブックスタートの情報は、「絵本」と「医療」を結びつける絶好のコミュニケーション知識、あるいはコミュニケーションツールとなり得るのです。睡眠を行動に移すひとつの儀式としての絵本の活用方法や、「生きること」「健康であること」「友情や愛情」について、定期的にお話できるのは小児歯科医療の定期健診という、とても良いシステムを活用することができるのです。定期健診こそ、育児支援のできる現場です。その最初の入口として、ブックスタートの話題はとても良い素材になります。

その地域のブックスタートの詳細を知り、保護者に正確に伝えて、実践していただければ、小児歯科医療の社会貢献度が増大することになるのです。待合室に絵本を備えることも重要なことですが、ブッ

クスタートに関して熟知し、地域の育児支援の一翼を担う小児歯科医療を考えてみてはいかがでしょうか。

また、親子に対するフォローアップが、小児歯科健診で可能になると考えます。1歳6か月の歯科健診を対象に読書問診を取り、乳幼児健診においてブックスタートの支援(説明を含む)を受けなかった親子へ読書支援を働きかけることができるのです。もちろん、体験豊富な親子に対してもステップアップアドバイスを行います。ブックスタートで見落とされてしまった親子へのフォローアップに重点を置くことこそが大事だと考えます。何とんでも2歳から7歳くらいまでが、親子で物語世界の機微を分かち合った読みあいのできる最も楽しい時期です。ブックスタートの説明を受けていない親子が、この最も楽しい、またとない時間を共有していないとしたら、そんなもったいないことはありません。2歳から始める絵本の楽しみ方を、対象児に適した絵本を紹介して、実際に読みあいながら、絵本のある家庭を構築するお手伝いが小児歯科の定期健診では可能なのです。

小児歯科医療と絵本の向こうに見えるもの

日本でブックスタート事業が始まって15年となる現在、「育児支援」のレベルに達していなかったり、関係各機関の連携にまで及んでいなかったり、活動の情報網が確立されていないという自治体も多く存在するようです。そういった名ばかりの事業では、本来の意図や、行政、地域の思いが親子へ届かないように思います。地域の育児環境を把握し、育児支援としての絵本、絵本を仲立ちとした保護者への本当の支援とは何かを冷静に考えるときではないでしょうか。そして、マニュアルどおりでは実現困難な自治体に取り組めるような、しかし事業の達成に変わりのない、新しい形を見出していくときにも来ていると考えます。



「ブックスタート赤ちゃん絵本20冊」の定番

『いないいないばあ』
松谷みよ子 文
瀬川康男 絵(童心社)



出産後も女性が職場に復帰する時代です。そして、核家族化や少子化に対応すると同時に、女性の社会進出という新しい形の子育て環境の変化に対応するためには、同じ地域で共に生活する親子の育ちを見守り、支援するのは地域の責務であり、私たち医療従事者の役割ということも言うまでもありません。子どもたちに関わる私たち専門家が発信者となり、赤ちゃん絵本から始まる、家族、地域、人々とのつながりが、安心して子育てできる環境の支えとなる街づくりを提案し、実践につなげていきましょう。



ありがとう
ございました。

文献

- 1) NPO ブックスタート: 「ブックスタートがもたらすもの」に関する研究レポート: NPO ブックスタート, 東京, 2014, pp.2-4
- 2) NPO ブックスタート: 赤ちゃん絵本をひらいたらーブックスタートはじまりの10年, 岩波書店, 東京, 2010, pp.v- viii
- 3) NPO ブックスタート: 赤ちゃん絵本をひらいたら, 岩波書店, 東京, 2010, pp.83-94
- 4) NPO ブックスタート: 赤ちゃん絵本をひらいたら, 岩波書店, 東京, 2010, pp.69-77

絵本

- 1) まついのりこ: ジャあじゃあ びりびり, 偕成社, 東京, 1983
- 2) 安西水丸: がたんごん がたんごん, 福音館書店, 東京, 1987
- 3) 平山和子: くだもの, 福音館書店, 東京, 1979
- 4) 松谷みよ子 文、瀬川康男 絵: いない いない ばあ, 童心社, 東京, 1967